

深谷市農委だより

2019年9月
No.28



深谷市イメージキャラクター
ふっかちゃん

大寄地区 若手農業者の皆さん



編集
発行

深谷市農業委員会

事務局 〒369-0292 深谷市岡2381-1 岡部総合支所内 ☎ 577-3439(直通)・FAX 585-3520

座談会 in 大寄

はらだ こういちろう
原田幸一郎さん（34才）、大島悠さん
(29才)の4人の方に、上敷免集落センターで座談会形式での取材をさせていただきました。



上敷免集落センター



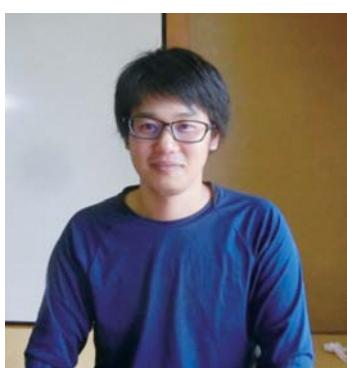
高田さん

高田 結婚がきっかけです。自動車関係、農機具関係の会社に勤めた後、実家が農家だった妻と結婚し、妻の実家を継ぐことにしました。



小松さん

小松 高校生の時に、バイオテクノロジーが話題になり、興味を持ちました。大学の農学部を卒業後、種苗会社や農業生産法人を経た後、妻の実家に近い深谷市の農業生産法人に勤務しながら、地元の方の協力により農地と住宅を借り、農業を始めました。



大島さん

大島 熊谷農業高校を経て、東京農業大学を卒業後、学童の指導をしながらねぎ農家の金子さんを手伝っていました。その後、農業大学校でトマトに興味を持ち、金子さんの紹介でトマトを作っている井田さんのところで研修しており、3年目になります。



原田さん

原田 25才まで、東京でIT関係の会社で営業をしていましたが、仕事に疑問を感じ、3年間、農業研修を経て新規就農しました。

Q これまでの経歴や、農業を始めたきっかけは何ですか？

原田 25才まで、東京でIT関係の会社で営業をしていましたが、仕事に疑問を感じ、3年間、農業研修を経て新規就農しました。



新規就農者座談会

若手農業者

今回は、井田農地利用最適化推進委員の紹介により、大寄地区で新規就農している小松慎之介さん(たかだ ひでお)（42才）、高田秀夫さん（48才）、

- Q 現在、どのくらいの規模で経営されています？**
- 小松** ねぎを9反、ズツキニを1反です。
- 高田** 米麦を12～13町、ハウスきゅうり6反、露地野菜としてねぎ、キャベツ、ブロッコリーを合計2町です。
- 原田** ハウスきゅうりを1反5畝、露地でねぎ、ブロッコリー、キヤベツを2町しており、認定農業者になつて2年目になります。
- 大島** 現在は、上敷免の農家さんのもとで研修をさせていただいていますので、自分で経営はしていません。
- Q 農業を始めて感じたことはありますか？**
- 小松** 思つていた以上に厳しく、思つていた3倍くらい大変です。
- 高田** 農機具関係の仕事をしていた頃から、農業経営の効率化を考えていまししたが、思つた以上に難しいと感じました。
- 原田** 先人農家の偉大きさを感じました。農業を始めてみて、体力的にも精神的にも大変だと感じました。
- 大島** やはり農業は大変なところはあります、トマトを育てる難しさに興味を持ったので、農作業はすごく楽しいです。

- Q 休日の過ごし方は？**
- 小松** 休日はほとんどありません。体を動かすのは好きで、昔は野球をしていたので、子供に教えています。
- 原田** 病気の時などを除けば、なかなか休みが取れません。
- 高田** 病気の時などを除けば、なかなか休みが取れません。
- 大島** やはり休日はほとんどありません。最近、北海道に研修に行き、とても勉強になりましたので、時間を作つても今後も行きたいです。
- Q これからやつてみたいことはありますか？**
- 小松** 農業経営を軌道に乗せることです。また、きゅうりなども始め、栽培品目を増やしていきたいです。
- 高田** 義父のノウハウを吸収し、それを次世代に伝えていきたいです。そのためには、現状の経営規模を維持しつつ、経営の効率化を図り、私以降の世代が引き継いでいきたいと思えるような農業をしたいです。
- 原田** まずは現状を維持していくことです。堅実な経営をしていきたいです。
- 大島** 来年以降は農家として独立し、地域や行政の方々の力を借りしながら、自分で一から野菜を作れるようになりたいです。今は、一日一日が精一杯な状況ですが、農業で生活で生きるようになりたいです。

ほ場の衛生管理を行いましょう

ほ場の消毒や管理が適切に行われないことにより、病害虫が発生してしまう恐れがあります。

病害虫の発生により、収量や品質の低下につながることや、病害虫が近隣の農地にも広がる恐れがあります。

ほ場の質や被害の状況により、適切な消毒や管理を行うことで、病害虫発生の防除になります。



砂ぼこり対策のご協力について

冬から春先の農閑期にかけては、強風により農地からの砂ぼこりが発生しやすい時期です。風により優良土壌が飛散し、風下の地域へ悪影響を及ぼします。次のような対策で優良土壌の飛散を抑えることができます。

- 中低木・防風ネット、竜のひげの植栽
- 耕運作業を作付け間近まで控える
- 煙かん等で散水し農地の湿潤化を図る
- 緑肥作物（エン麦、ライ麦）の播種

※市では防風ネットの設置補助を行っています。ご協力頂ける方は農業振興課までお問い合わせください。尚、農地の場所等により設置できない場合があります。

●問い合わせ

農業振興課・整備係
☎ 577-3298



イノシシ等による農作物被害対策を実施します

近年、イノシシ等による農作物被害が確認されていることから、次の対策を実施します。

詳細については、問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

■電気柵の貸出しについて

協議会所有の電気柵を、希望される方に貸出します。

■電気柵の購入補助について

イノシシ等に対する、侵入防止用電気柵一式に係る購入費用を補助いたします。

- 申請回数：1年度内に1回
- 申請期間：令和元年10月31日まで
- 补助率：1/2
- 限度額：30,000円以内

■イノシシの捕獲について

イノシシによる農作物被害の恐れがある場合は、農業振興課あてにご連絡をお願いします。捕獲の必要があると判断された場合には、獣友会へ捕獲を要請します。

●問い合わせ 農業振興課・農業政策係

（深谷市鳥獣害対策協議会事務局）
☎ 577-3298

遊休農地を解消しましよう

農地は、農業生産の基盤です。農地は現在及び将来における国民のための限られた資源であり、地域における貴重な資源です。しかし、近年では農業者の高齢化や、相続による分散や所有者の遠隔化などにより、適切に管理されていない遊休農地が目立つてきています。

深谷市も例外ではなく、農業委員会で毎年実施している農地の利用状況調査によると、平成30年度では、181haの遊休農地が確認され、遊休農地率は2.98%となつており、年々上昇傾向にあります。

遊休農地は、雑草等の繁茂や病害虫の発生により周辺農地に悪影響を及ぼすばかりでなく、冬場においては火災の発生源となる恐れがあるため、防災面にも悪影響を与えます。一度、遊休農地化させると、耕作できる状態に戻すためには、多くの費用と時間が必要となります。

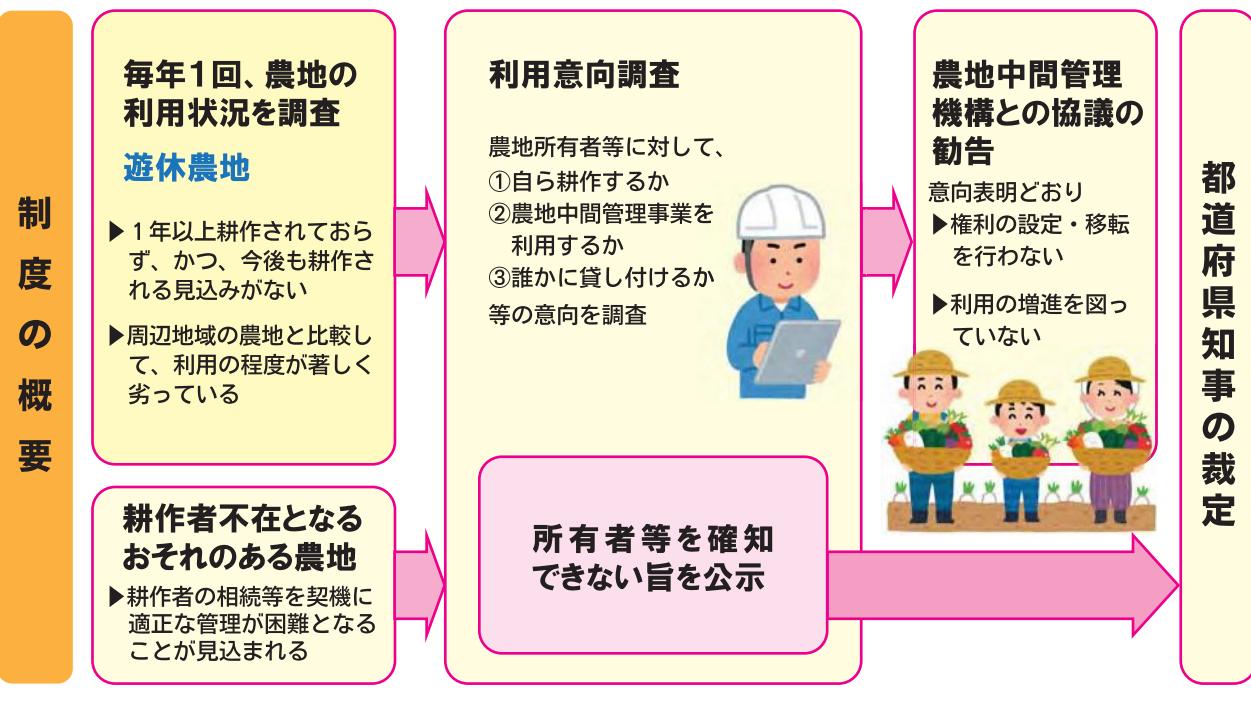
農地法では、農地を所有又は耕作する者は、農地の適正かつ効率的な利用を確保するようにしなければならないとされています。

遊休農地を増やさないために、農地の定期的な管理や解消に向けての検討をお願いします。

農業委員会では遊休農地解消のため、下記の取り組みを行っています。このうち「利用意向調査」は、遊休農地について今後の利用方法を確認し、貸付等に結び付けるために実施するものです。今年度も調査を行いますのでご協力をお願いします。

農地法に基づく遊休農地に関する措置の概要

- 農業委員会が毎年1回、農地の利用状況を調査し、遊休農地の所有者等に対する意向調査を実施。
- 意向どおり取組を行わない場合、農業委員会は、農地中間管理機構との協議を勧告し、最終的に都道府県知事の裁定により、同機構が農地中間管理権を取得できるよう措置。
- 所有者が分からない遊休農地(共有地の場合は過半の持分を有する者が確知することができない場合)については、公示手続で対応。



老後の安心 農業者年金に加入しましょう

農業者の皆さん、老後の備えは大丈夫ですか。農業者年金は、国民年金だけでは不足する老後の生活資金を補い、農家の皆さんのが安心して就農できるよう作られた制度です。

制度の特徴

- ①年金は保険料を積み立てて、65歳以降に受け取れる積立方式です。年金は生涯支給されます。
- ②加入期間1か月でも年金が受け取れます。
- ③保険料は月2万円～6万7千円までご自分の生活状況に合わせて決めることができます。
- ④認定農業者で青色申告をしているなど一定の要件を満たせば、保険料について一定額を国から支援される「政策支援加入」があります。
- ⑤保険料は所得税や住民税の社会保険料控除の対象となり、税額の節約につながります。



また現在の農業者年金は、配偶者や後継者などの家族従事者、農地を持たない農業経営者の方でも次の3つの要件を満たせば加入することができます。

加入要件

- ①国民年金の第1号被保険者（ただし保険料納付免除者ではないこと）
- ②年間60日以上農業に従事する方
- ③20歳以上60歳未満の方

※農業者年金に加入する際は、国民年金の付加年金にも加入する必要があります。



加入についてのご相談はお近くの農協の本支店、または農業委員会までお問合せください。

深谷市農業委員会 ☎ 577-3439

新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊

金曜日発行

月700円、年8,200円

お申し込みは農業委員会へ

編集後記

農委だより編集委員会

委員長	大澤 慶三	推進委員も若手農業者の思いに応え	私たち農業委員・農地利用最適化	今回、大寄地区で就農している
根岸 須藤	井田 康三	られる体制づくりに努めていきます。	若手農業者の皆さんによる座談会を行いました。みなさん苦労されながらも深谷市の農業を担う思いを語つてくれました。	夏の疲れが出てくる頃ですので、体調管理に気を付けましょう。
邦次 和彦	貢			
柴崎 澄澤	蛭川			
立志 隆之	登			